

令和4年度学校評価（自己評価書）

樟南高等学校

1 はじめに

少子高齢化が急速に進行する社会において、中学生やその保護者から通いたい・通わせたい学校として選ばれるには、学校の特色をどのように構築するかが急務である。過去14年間の評価を踏まえ、今年度は、「より特色のある学校づくり」という観点から、教育活動の成果や課題を明確化していきたい。

2 実施方法

今年度も引き続き、各部・学科・コース毎に年度当初に設定した評価項目について、それぞれの構成員が評価した。

評価者は管理職を除く本務職員94名。

3 実施期間

令和5年2月22日～3月10日

4 評価方法

(1) 評価の尺度：評価項目を5段階で評価する。

5： かなり成果が上がっている。計画・実践ともよい。望ましい状況である。

4： 一歩前進している。ややよい。よい方向に進んでいる。

3： 普通である。

2： 努力を要する。問題点がある。一歩後退した。

1： まったくできていない。

(2) 所見

よかった点や来年度の課題等を記述する。

5 結果報告

評価項目	評価者	評価結果	
		今年度	昨年度
校務分掌等の組織運営の改善	教務部	4	4
挨拶や服装等のマナーアップ	生徒指導部	4	4
個々の生徒理解と適切な支援	教育相談別室支援	4	4
生徒の能力・適性に応じた進路指導	進路指導部	4	4
難関大学への挑戦	特別進学指導部	4	3
募集定員確保のための組織運営	広報部	4	4
健康と安全の推進	保健部	4	4
トイレ、階段、特別清掃区域の清掃の徹底	環境整備部	4	3
図書館の利用促進～貸し出し本の増加	図書館部	3	3
窓口での接客対応の充実	事務部	4	4
上級資格への挑戦	商業科	4	4
基本的な生活習慣の確立	〃		
挨拶・服装指導の徹底	文理コース	3	3
積極的に授業に参加する態度の育成	英数コース	3	4
豊かな人間性の育成	未来創造コース	3	3
授業への集中力の養成	〃		
各種検定試験と資格取得への挑戦	機械工学コース	3	4
資格取得、検定試験への指導の充実	電気工学コース	3	3
三級整備士全員合格への挑戦	自動車工学コース	4	5
	平均	3.6	3.7

評価の尺度

- 5 : かなり成果が上がっている。計画・実践ともよい。望ましい状況である。
- 4 : 一歩前進している。ややよい。よい方向に進んでいる。
- 3 : 普通である。
- 2 : 努力を要する。問題点がある。一歩後退した。
- 1 : まったくできていない。

6 自己評価の総括

() 昨年度の評価

(1) 校務分掌等の組織運営の改善（教務部） 評価4（4）

本年度は教務部に所属する先生方への業務分担を積極的に進め、行事ごとに担当を決め、計画から行事实施まで主任を中心に部全員が協力する組織作りに注力した。

また本年度から始まった「観点別評価」についても、1学年の授業に携わる先生方へ周知徹底するのに期間を要したが、何とか対応することができた。通知票への記載方法の在り方などの改善すべき点を来年度に向けて整えていき、生徒にとってよりよい評価になるよう整備していかなければならない。

教務システムの導入から数年経過し、改善点を改良しながら、年々活用する種類を増やしている。教職員の業務改善についても進められるように日々研修や自己研鑽を深めて、今まで以上に生徒や保護者へ還元できるよう業務を推進したい。

(2) 挨拶や服装等のマナーアップ（生徒指導部） 評価4（4）

服装の大きな乱れを感じるものが少なくなっている。自転車通学生など交通に関するマナーの向上が必要である。坂道でのスピード、並走、来年度より努力義務に変更になったヘルメットの着用など意識の向上に努めていきたい。登校指導や下校指導を全職員で共通理解・共通実践で行うことができ、生徒の挨拶が概ねよくなっている。来年度も全職員で取り組み、さらなる意識の向上を図りたい。

(3) 個々の生徒理解と適切な支援（教育相談別室支援） 評価4（4）

適応推進委員会において認定された生徒への対応、管理支援体制については、整えられてきつつある。ただ、生徒の多様化と増加傾向に対応する支援系の時間にゆとりがないのが現状である。本年度適応推進委員会で認定された生徒は、25名（昨年度23名）で、3年10名、2年9名、1年6名の内訳であった。現時点では、教室復帰4名、転学1名、休学1名、退学予定1名となっている。課題としては、適切な学力支援と教室復帰への助言指導の向上があげられる。担任の積極的な取り組みに加え、教科担任・支援係との連携をこれまで以上に密にする必要がある。

(4) 生徒の能力・適性に応じた進路指導（進路指導部） 評価4（4）

本年度の求人数は2,223名（県内611名）、求人倍率24.7倍（前年26.5倍）で昨年より3学年の人数が増加したため倍率は減少したが、求人数は13.3%増え、売り手市場が続いている。就職者は100名で、学校の紹介により88名、公務員5名（練馬区役所1名、自衛官4名）、縁故7名で100%の内定率だった。各コース主任、担任を中心として生徒の能力や適性を見極め、丁寧な進路指導を進めることができた。県外希望者が44名、県内56名となっている。県内希望が56%で昨年より県外が増えた。来年度も人手不足は続くと思われるが、新型コロナウイルスや経済状況、世界状況など不透明な部分もあり、早めの取り組みを実施していきたい。

進学については、文理・英数を除き、私立大学80名、県立短期大学2名、私立短

期大学12名、専門学校69名とおおむね良好であった。一方、AO入試での不合格者もあり、進路希望実現のための更なる学力向上対策が必要である。

(5) 難関大学への挑戦（特別進学指導部） 評価4（3）

今年度は、難関大学に加えて超難関大学の受験者が出た。受験結果は最も喜ばしいものとはならなかったが、受験者たちは入試ぎりぎりまで努力を続けてくれた。後輩や我々職員にも良い刺激になったと思う。何とか低学年から向上心を芽生えさせ上位校への受験者数及び、合格者数を伸ばしていきたいものである。また、英数コース1・2組からの国公立大13名合格は素晴らしい結果であった。来年度もさらに記録更新を目指してほしい。

反省点は、難関大において受験者数は伸びたが、合格者数が比例しなかったことである。また、国公立合格の可能性を持ちながら、早くから教科を絞り私立型に変更したものが多数出た。進路希望がそうであれば仕方ないが、受験苦から逃れようとする生徒と保護者も散見された。これらは、担任、教科担任が協力し合い改善していくべき課題である。

(6) 募集定員確保のための組織運営（広報部） 評価4（4）

今年度も新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、体験入学や入試などを実施することができた。受検者数は、昨年を下回ったものの3,000人を超える出願者を確保できたことは、中学校担当の先生方を中心に、教職員全体の協力のおかげである。また、Web出願の導入により、入試業務の効率化が図られた面もあったが、一方で課題もあり、来年度以降の改善に繋げたい。

出前授業や来校の依頼も増えつつある。本校を知ってもらう良い機会であり、概ね満足していただいていると感じているので、受検・入学へとつながるように継続していきたい。来年度の体験入学なども、コロナ禍前のような形での開催に向けて、より充実した内容で実施できるように準備を進めていきたい。

(7) 健康と安全の推進（保健部） 評価4（4）

新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底しながら新年度をスタートしたが、4月に延期していた修学旅行や一日遠足後に感染者が拡大した。学級閉鎖・寮閉鎖等の迅速な対応で爆発的感染を防止できたが、閉鎖前における寮担当や保健部などとの更に綿密な打ち合わせの必要性を感じた。また、日頃から「新しい生活様式」を踏まえて感染対策を推進し、マスク着用・換気・教室や用具等の消毒・健康観察（検温・行動歴等の確認）・食堂利用人数制限等を実践したことにより、感染を最小限に防止することができた。これからは、マスク着用義務が個人の判断に委ねられるなど、これまでの厳しい規制が緩和され、学校生活も通常に戻ることが予想されるが、基本的な感染対策は今後も継続しなければならないと考える。来年度も、新型コロナウイルス感染症対策委員会で問題点や感染防止対策等を検討し、生徒・教職員が【安心・安全】に学校生活を送れるような手立てを講じなければならない。

毎月実施している安全点検については、校内施設や設備の修繕・交換箇所等を報告しているが、改善が追いつかない状況もある。予算や補助金等の問題もあると思われるが、生徒・教職員が安心・安全に学校生活を送れるよう計画的に改善してほしい。

学校衛生委員会を定期的実施し、職場の環境改善として産業医による校内巡視により、改善点や問題点を指摘して頂き、学校の対応や教職員の意識向上が図られ職場環境が整いつつある。来年度も産業医の指導・助言を頂きながら、パワハラ・セクハラ等の問題についての研修等も深め、働きやすい環境の整備に努めたい。

(8) トイレ、階段、特別清掃区域の清掃の徹底（環境整備部） 評価4（3）

「トイレのきれいな学校づくり」をモットーに、トイレ清掃担当学級の先生方、点検係の先生方、保健室の先生方のご協力と生徒たちの取り組みのおかげで、トイレを綺麗にできている。一方で、清掃だけではとれない汚れや悪臭のもとについては、業者にクリーニングを依頼するなどして思い切った美化に取り組む必要がある。その上で作業・点検を継続すれば、より美しいトイレを維持できるようになると期待する。

階段・特別清掃区域の清掃についても少しずつ清掃への取り組み状況が向上していると感じる。とはいえまだまだ清掃美化への取り組みの差が清掃状況にも表れている。全校生徒・職員が「学校をきれいに」の意識と工夫で日々の清掃にしっかりと取り組めばより一層の効果が出るものと期待する。清掃に必要な用具の配布、ていねいな管理にも心がけていきたい。

今年度は大型の不要な備品処理も行うことができた。事業所ごみ扱いの処分については今後も検討し、よりよい方法を確立する必要がある。

緑化活動についても、花植えや水やり、手入れが計画的になされ、四季をとおして花いっぱい学校になっている。創立140周年を迎える本校を、ますますきれいな学校にすべく、次年度も全員が一体となって環境美化に取り組んでいきたい。

(9) 図書館の利用促進～貸し出し本の増加（図書館） 評価3（3）

本年度1回目の図書購入については、これまでどおりの方法を踏襲して実施した。2回目は、生徒や職員に希望図書などを募集しリストアップし、購入を計画したが、図書選定委員会での検討未了のため購入に至らなかった。その後、設置された図書選定委員会での検討を経て年度末の購入となった。年度当初は、予算を分割し1～2か月に一度の購入を計画していたが思うように進まず、今年度の購入は2回となった。年2回の芥川賞直木賞の受賞後や、話題の本など、いち早く生徒へ届けたいので、問題点を検討し、次年度以降はなるべく速やかに新刊や要望のあった本が届けられるようにしていきたい。昼休みの利用者も多いので、マナーを守らせながら生徒が利用しやすい図書館づくりを心がけたい。

(10) 窓口での接客対応の充実（事務部） 評価4（4）

事務室の窓口業務は、来訪者の皆様が本校職員に最初に接する機会であり、本校の印象を決めることになる事務室にとって最も大切な業務の一つである。そのため、今

年度も窓口が一番近い場所に職員を2名配置し窓口業務に当たってきた。対応については、全員丁寧で適切であったが、コロナ感染症拡大もあり、対応に少し滞りが見られたことが今後の改善点である。

また、生徒・保護者・職員への対応も、同じく事務室の大切な窓口業務である。昨年度から、生徒への窓口の開放時間を拡大し、早朝や夕方時間帯にも随時対応するよう便宜を図っているため、事務室全体としての接客対応は、昨年度より一歩前進していると評価したい。来年度も、生徒や来校者・保護者の皆様への対応の充実が一層図られるよう事務室職員の共通理解を深めたい。

(11) 上級資格への挑戦・基本的な生活習慣の徹底（商業科） 評価4（4）

基本的な生活習慣の確立は、毎年の課題である服装容疑の徹底ができなかった。粘り強く関わっていく姿勢が大切であり、再度共通理解を深めて取り組んでいきたい。

上級資格の挑戦については、課題研究で日商簿記2級を選択し、検定に向けて真剣に取り組んでくれた。力の差があり全員合格はできなかったが、「真剣さ」や「意欲」は評価できる。今後の課題として、簿記の上級資格を目指すのであれば原価計算の履修を考えていかなければならない。2年生のセレクトで日商簿記3級を取得した生徒のなかには、日商簿記2級を取得したいと考えている生徒がいる。特進ビジネスコースの簿記の取り組みの検討が必要である。3年生の資格取得は、日検の3種目1級が50名以上と、生徒たちが非常に良く頑張った。日頃の取り組む姿勢が良い形で表れたものであり、2年生もその流れに沿って意欲的に頑張っている。

(12) 挨拶・服装指導の徹底（文理コース） 評価3（3）

教科担当の先生方への挨拶は良いが、それ以外の先生方への挨拶が積極的ではない。まずは、教員側からの積極的な挨拶が必要である。会釈の習慣が身に着いていなくて、他者とのコミュニケーション力に乏しい生徒も徐々に増えているので、4月当初の指導が肝要だと思われる。

服装については、女子は良くなってきている。男子のシャツ出しはほとんど見られなくなったものの、ネクタイのゆるみが散見される。注意するとすぐに正すので、意識の低下であろうと推測されるが、普段から規則遵守の習慣を身につけてほしい。

(13) 積極的に授業に参加する態度の育成（英数コース） 評価3（4）

年度末に向かうにつれコロナによる影響が徐々に緩和され、授業展開にも良い変化をつけることができた。生徒同士が協力しながら活動する（アクティブラーニング）機会の増加やICT機器（タブレット端末等）の活用により、授業内外での情報共有をこれまで以上に図れたことや生徒の理解度を深められたことが今年度の大きな成果といえる。コース全体の新たな取り組みとして、外部講師を招いての特別授業や体験授業を行い、生徒の視野を広げる絶好の機会を設けることができた。また、昨年度に引き続き、学習形態の工夫に取り組み、生徒の興味・関心を喚起する授業が行われ、単語力テストや漢字力テスト、その他の小テストでの結果を上げることができた。

一方で、生活リズムの乱れに起因する欠席や遅刻、居眠り、その他学習意欲の低下による課題の不消化など改善すべき課題も多い。まずは、基本的な生活習慣の確立を徹底することで、元気に登校できる生徒が更に増え、活気ある雰囲気のもと、勢いのある授業展開がなされることを目指したい。また、授業に向かう姿勢作り（教材準備・チャイム着席他）や予習・復習・提出物に対する見届け指導、授業における教師の丁寧な説明や発問の活用など、基本的事項の指導を今後も継続し、生徒の授業に対する積極性向上につなげていきたい。

近年、目標達成や自己実現のために、自律した高校生活を送ることができる生徒が増えつつあり、全体的に頼もしい印象を受ける。しかし、注視してみると何かしらの不安や悩みを抱えている生徒が少なくはない。精神的安定を図れずに感情に左右される、あるいは実力が発揮できないといった状況が時として現れている。それらの場面を見過ごさず、特に不登校への早期対応を図りたい。生徒を取り巻く環境が多様化している状況下で、教員自身の生徒観や指導観、指導法のアップデートを図り、生徒と共に少しでも多くの課題を乗り越えられるよう努めていきたい。

(14) 豊かな人間性の育成・授業への集中力の養成（未来創造コース） 評価3（3）

「豊かな人間性の育成」については、コースとしては、全体的に落ち着いて生活ができるようになってきた。携帯電話の不正使用などが散見されるが、全職員で共通理解を図り指導していきたい。未来の創造に資する未来塾は、今年度2回しか開催できなかったもので、来年度は早めに調整し、計画的に6回ほど実施する予定である。

「授業への集中力の養成」については、毎年の課題として、授業中の居眠りがあげられている。全体集会での指導に加えて、ICTを活用したりやアクティブラーニングを取り入れたりして集中力を高めたい。また、年度末に新3年生に初めて、大学進学と専門学校・公務員を含む就職などの進路希望によるクラス編成を行ったので、学習意欲の更なる向上に繋がるものと期待している。

(15) 各種検定試験と資格取得への挑戦（機械工学コース） 評価3（4）

全国工業高校ジュニアマイスター顕彰制度において、「ゴールド」1名、「ブロンズ」2名と昨年度と比べると認定生徒が減少してしまった。昨年と違い、3年生の進路決定後も上級資格にチャレンジする生徒がいなかったことが原因の一つである。近年、資格試験や講習にかかる費用も値上がりして、保護者の負担も大きくなってきているので、将来、生徒の財産になるような資格を選定し挑戦させたい。危険物取扱者試験については、昨年同様、良い結果は得られなかった。今年度、特訓方法を工夫したが、まだまだ改善する必要があると思う。ただ、1年生の取得状況が例年より良かったので、上級学年における上級資格取得へ繋げていきたい。

(16) 資格取得、検定試験への指導の充実（電気工学コース） 評価3（3）

今年度の全国工業高校長協会ジュニアマイスターの「ゴールド」を2名（3年1名、2年1名）、「シルバー」を4名（3年1名、2年3名）、「ブロンズ」を3名（3年2

名、2年1名)の計9名が称号を取得した。2学年は、資格取得に対する意欲が高く、今後の称号取得者が増える見込みである。第二種電気工事士は、8名(3年2名、2年4名、他コース2名)の合格者であった。数年ぶりに第一種電気工事士の合格者が1名出ている。年々、資格の合格率は増加しているが、受験率が低下傾向にある。ICTを活用して有用な資格を紹介し取得意欲を促すとともに、合格に向けた効率の良い指導に努めていきたい。

(17) 三級自動車整備士全員合格への挑戦(自動車工学コース) 評価4(5)

全国工業高校ジュニアマイスターにおいて、「特別賞」を1名、「ゴールド」を4名「シルバー」を1名取得し、最高だった昨年に次ぐほどの結果を出してくれた。

三級整備士については、昨年度同様、全員合格の目標を目指したが今年度は達成できなかった。学力差の大きいクラスではあったが、生徒たちの努力がガソリン84%・ジーゼル87%・シャシ100%と高い合格率に繋がり安堵している。

今後も全員養成・全員受験・全員合格のために授業内容の充実を図り、自動車整備士の社会的重要性を認識させ国家試験の合格率向上に取り組んでいく。

7 まとめ

本年度の教育目標には、以下の5点が掲げられている。

- (1) 建学の精神「博文約礼」と、校訓「進取 友愛 誠実」の具現化を図る学校づくりに努める。
- (2) 「私学の教職員」であることを強く意識し、一人一人の生徒を大切にし保護者の期待に応える信頼される教職員により、豊かな発想に基づく創造性に富んだ学校づくりに取り組む。
- (3) 充実した授業実践により、確かな学力の定着を図り、生徒の進路希望実現を支援する。
- (4) 学校の「不易流行」を熟慮し、バランスの取れた学校改革に取り組む。
- (5) 一人一人の生徒や保護者に向き合う特別支援教育を推進する。

さらに、教育目標を実現するための努力目標を次の8点定め、本年度の教育の指針とした。①特色のある学校づくり ②授業の充実と学力の定着 ③高いレベルで文武両道に取り組む生徒の育成 ④確固たる目標を持って上級学校や職場への進路希望実現を目指す生徒への積極的支援 ⑤基本的な生活習慣の確立と心身共に健康な生徒の育成 ⑥教育環境の整備と美化 ⑦創意工夫のある広報活動の展開 ⑧新たな時代の学校改革の推進

この8点の観点により、本年度の教育活動の総括をしたい。

努力目標の①は「特色のある学校づくり」である。生徒指導部が挨拶・服装のマナ

ーアップを提唱し、普通科や商業科で豊かな人間性の育成や挨拶・服装指導の徹底等に取り組んできた。ほとんどの生徒の基本的な生活習慣は確立されているが、一部に服装や頭髪で注意を受ける者がある。部活動生に始まった「立ち止まってる挨拶」は、部員以外にも広まっている。挨拶や服装は、人間力養成に直結するので、これが入学希望者の増加に直結する主要因の一つであることを再認識させ、部活動生が更にリーダーシップを発揮して、特色ある校風の醸成に貢献するよう、教師はたゆまぬ声かけに努めたい。

特別支援教育については、「個々の生徒理解と適切な支援」を項目に挙げ、教育相談係を中心に取り組んできた。クオリティルームでのきめ細かな指導に頼るところではあるが、認定者が増加しているので、いかにして進路の意識を醸成させるかが鍵である。それが教室復帰へ足掛かりになるので、担任・教科担任との緊密な連携や生徒とのより深いかかわりが不可欠になろう。

未来創造コースでの新聞活用を始め、スキットコンテストや中国・韓国を学ぶ国際文化理解などの様々な取り組みは本校教育の特色の一つと言える。今年度も、コロナ禍により、職場体験を始め、スキットコンテストなどコースを代表する行事が開催できなかった。また、未来塾も2回の実施にとどまったので今後は更に拡充したい。

豊かな人間性の育成に資するために、平成元年に始まったボランティア活動や地域貢献活動として人気の、商業科主催の「樟南マルシェ」も、コロナ禍で中断を余儀なくされていたが、工業科のプランター置台設置などの地域貢献活動とともに、未来創造コース独自の取り組みと併せて来年度の更なる充実に期待したい。

②の「授業の充実と学力の定着」については、英数コースが「積極的に授業に参加する態度の育成」を目標に、アクティブラーニングの機会の増加を図るとともに、ICT機器やデジタルコンテンツの活用により興味・関心を喚起させ理解度を深めることができた。今後もこれらを授業取り組みの積極性向上に繋げたい。また、未来創造コースが「授業への集中力の養成」を評価項目に挙げているが、理解力の差への対応に苦慮している。年度末から利用可能になったスタディサプリを活用させたり、英数コースのICT活用例を参考にしたりして生徒の意欲向上を図りたい。

③の「高いレベルで文武両道に取り組む生徒の育成」については、進路指導部が「生徒の能力・適正に応じた進路指導」を、特別進学指導部が「難関大学への挑戦」をそれぞれ評価項目に掲げた。就職については、学校への求人票により88名、公務員5名、縁故7名で100%の内定率だった。コロナ禍の影響など今後の社会情勢を見据え、早めの取り組みに努めたい。

進学については、文理・英数を除き、私立大学80名、県立短期大学2名、私立短期大学12名、専門学校69名と良い結果を挙げた。

特別進学部については、文理コースが、九州大・鹿児島大医学部医学科など難関大への合格者を出した。特に、今年度は、医学部医学科5名合格が評価に値する。英数

コースでは、九州大学をはじめ、国公立大学に39名合格し、過年度ながら医学部医学科にも2名合格している。両コースとも、医・歯・薬・看護系の希望者が増えており、これまで志望と学力のギャップに苦戦を強いられた者も少なくないので、進路を早期設定するとともに、その実現に資する志望大学の難易度を掌握し、バランスのとれた基礎力の定着に取り組ませたい。また、新課程に準じた国公立大学推薦入学制度への対応策構築も急務である。

④の「確固たる目標を持って上級学校や職場への進路希望実現を目指す生徒への積極的支援」については、普通科未来創造コースや文理・英数コースで、これまで、進路指導のスペシャリストによる講演や先輩の講話を聴く機会を設け、生徒の目標設定の一助となっていたが、コロナ禍により、今年度は機会を減らさざるを得なかった。

また、未来創造コース、商業科、工業科の職場体験も中止を余儀なくされたが、進路指導部主催による、年1回の進路ガイダンスは学年別実施できたので、生徒は具体的な説明を受け、進路の探究に資する行事となった。

商業科では、受検級の難易度別班編成により、日商簿記2級、医療事務2級や全商3種目1級などの上級資格に合格している。国公立大への道を開拓すべく開設された特進ビジネスコース1期生が、来年度は初挑戦となる。教諭陣と生徒が一丸となって成果を挙げたい。

工業科においては、機械・電気・自動車の全コース合計で全国工業高校ジュニアマイスターの「特別賞」1名・「ゴールド」7名（昨年7名）・「シルバー」4名（20名）・「ブロンズ」6名（18名）であり、「ゴールド」以外は減少した。進路決定後の挑戦や新たな検定への挑戦も来年度の課題の一つであろう。

今後も、すべての科・コースにおいて、生徒に自らの将来を見据えた資格取得の重要性を自覚させ、3年間を見通した進路意識の醸成に努めるとともに、意欲不足の生徒をどのように巻き込み相乗効果を生み出すか、日頃の授業や教材を更に研究し、専門的な知識の定着を目指して1年から段階的に指導していきたい。

⑤の「基本的な生活習慣の確立と心身共に健康な生徒の育成」については、保健部主導の日々の健康観察により健康状態の把握がなされており、感染症予防や精神的な悩みの解消も継続的努力により管理がしっかりとなされている。

新型コロナウイルス感染対策のため、教室・体育施設・寮などの消毒が恒常的になされ、クラスター発生を防止できたことは評価に値する。今後も、換気・手洗い・マスク着用などの「新しい生活様式」に自主性をもって取り組ませたい。

心身の不調を訴える生徒が増加傾向にあるので、保健室とクオリティルームとの連携を図り、スクールカウンセラーのご支援を受けながら、心の健康に資するサポートの在り方の研究を深め、楽しく学べる環境づくりに努めたい。また、生徒が、自ら基本的な生活習慣を確立することにより、心身の健康を維持できるよう努めさせたい。

⑥の「教育環境の整備と美化」については、環境整備部が目標の一つとして、「ト

イレのきれいな学校づくり」を掲げ、清掃点検の実施により、きれいなトイレが維持されているとの報告がなされている。ゴミステーションへのゴミの持ち込みに分別不足の課題が指摘されているので、分別などについて意識の徹底が求められる。

⑦の「創意工夫のある広報活動の展開」については、広報部が「募集定員確保のための組織運営」を項目に掲げ、3,000人を超える出願者数確保を達成した。Web出願を導入し、業務の効率化も図られた。ただ、コロナ対策のため、全ての行事に新たな対応が求められ、苦慮した業務もあったが、ほぼ予定通り遂行することができたので、入学者の増に繋がったと思われる。来年度は、コロナ禍前の社会情勢が想定されるので、あらゆる事態を想定の上、従前より進展した業務遂行に努めたい。

⑧の「新たな時代の学校改革の推進」については、創意工夫ある教育活動として地域に貢献してきた30年を超える特別養護老人ホームでの女子ボランティア活動や、「樟南マルシェ」は、今年もコロナ禍のため休止を余儀なくされた。マックスバリュ武岡店への木製ベンチなどの提供や学校周辺の清掃活動を行う男子ボランティア活動などは、継続されており、地域貢献の意識醸成に資する活動として評価したい。

国際文化理解を目指した中国語・韓国語や英語に関する総合的な探究も新たな時代を見据えた教育活動であり、更なる充実した運営が望まれる。

今後、学校改革に向けた特色ある教育活動を推進するためには、「働き方改革」を踏まえた効率的な業務遂行が必然となる。各教室に設置された最新鋭のプロジェクタとスクリーンを活用して、一堂に会することなく各教室で、式典や集会を行なってきた。更に、Wi-Fi機能も整備され、授業へのICT活用推進も図れるようになってきているので、これからも、「自立」する生徒の育成を目指して、ICTを駆使しつつ、創意工夫に充ちた樟南独自の教育活動を展開したい。

今、進学に係る高校教育は、「高大接続改革」を中心に大きな転換期を迎えている。従来の「大学入試センター試験」に代わり、一昨年度から「大学入学共通テスト」が実施されている。更に国は、昨年度、未来を担う人材育成のため、高等教育をはじめとする教育の在り方について国の方向性を明確にすべく、「教育未来創造会議」を立ち上げた。

情報化社会の急速な進展や少子高齢化・グローバル化などにより、現在の中高生が社会で活躍を求められる頃には、社会は我々の想像をはるかに超えるようなものになっていることが想定できる。このような時代においては、「自ら問題を発見し、それを他と協力して解決する資質や能力が求められる」ということが、この接続改革のベースになっており、共通テストでは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」をバランスよく評価することが求められている。従って、高校生活においては、自らの力で考えをまとめたり、相手が理解できるよう根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力を培うことを常に

意識しておくことが肝要である。

新学習指導要領の総則では、全教科について、教科ごとに「何ができるようになるか」を明確化し、生徒が主体的・対話的に参加することにより、深い学びを得られるような授業に改善しなければならないとしている。そのため、教員には、生徒の思考を深めるため、発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、必要な学習環境を積極的に設定していくことが求められている。

また、新学習指導要領に準拠した教育課程や教育内容に基づき、1年生には、次の3つの観点別による評価を行った。一つ目の「知識・技能」や二つ目の「思考・判断・表現」については、定期考査等を中心に評価し、三つ目の「主体的に取り組む態度」については、従来の平常点に相当する、提出物、発表、グループ活動や生徒自身の自己評価などを評価してきた。導入初年度ということで教務システムとの連携という面に課題もあり、来年度はそれらを改善して生徒にとってよりよい評価になるよう研修を深めたい。

また、昨年度から新生は、中学校での活動を記録した「キャリアパスポート」を携え入学してきた。本校では、「樟風」と銘打ち、文部科学省の指針に沿って独自の「キャリアパスポート」が作成できるよう整備されているが、まだ活用にバラツキがある。高校では、生徒に年度当初の目標を設定させるとともに、それぞれの目標に沿った活動を詳細に記録しておく必要があり、教員も、生徒たちの卒業後の進路を視野に「キャリアパスポート」を蓄積しておかねばならない。来年度は、1・2年生全員が持っている各自のiPadをキャリアパスポート作成に駆使できるよう統一した時間を設定するとともに、コースの実情に合わせてClassiやスタディサプリでの学習を推進し、アプリを活用した自主学習の習慣を確立して学力向上に繋げたい。

生徒に進路希望実現をさせるためには、教職員が、「キャリアパスポート」の活用を念頭に、進学希望者については、早期に目標設定をさせるとともに、入試改革を踏まえた各コース独自の学習法の研修を行い、教科バランスの維持を図ることが急務である。就職希望者についても、就職後に有用となる資格や技術の修得を目標に各種検定や実習への積極的な取り組みが求められる。

今後は、全科・コースが連携を図りながら、教育内容・方法・評価の刷新を図り、新たな総合型選抜（旧AO入試）を活用しての国公立を含む大学進学や公務員への道の構築も含めて、多様化する生徒・保護者のニーズに応えられる学校という評価を確立したい。そのためには、在校生が「がんばれば感動」というモットーの具現者になることが不可欠である。その実現を可能にする牽引者となるのは、教職員にほかならない。生徒により多くの感動を与え、誰もが通いたくなる名門校の創造を目指し、全職員による共通実践を継続することが肝要である。